

## 第9回 千曲市総合計画審議会 議事録

日時 平成29年2月1日(水) 午後1時30分

会場 戸倉創造館大ホール

### 1. 開会

<開会のあいさつ>

### 2. 審議会長あいさつ

<会長あいさつ>

### 3. 会議事項

#### (1) 千曲市総合計画パブリックコメント等について

<事務局より説明>

委員： まちづくり懇談会のオスプレイの質問についてだが、「佐久から入っていますが」という意味がわかりません。

政策推進係長： 計画を見ると飛行ルートが佐久を通るルートで、千曲市の上は通らないのでご安心していただきたい。という趣旨でご理解願いたい。

委員： まちづくり懇談会やパブリックコメントで、それぞれの意見・提案と市の考え方が出されているが、これを受けて修正したのは説明のあった点だけか。もう一点、まちづくり懇談会の中で出された「新幹線新駅の在来線との乗り換え場所について、具体案はあるのか」という問いに、市は「A案の場合は屋代駅、B案の場合は屋代高校前駅付近となる」と答えているが、今の段階で何か構想があるのか。

政策推進係長： 1点目については、説明した2か所の修正が必要だと判断した。農林業については「支えるだけでなく振興もしていこう」という施策でもある。また、男女共同参画の観点から、「女性」と限定する表記はふさわしくないことから、修正したいと考える。

企画政策部長： 2点目の新幹線新駅に関して、A案、B案いずれかを決めるのはJRである。したがって、JRが採算性や技術的な問題などを加味して、どちらが有利かを判断する。今は、市が調査した結果をもとに、この2つの案をJRに提案するという段階である。

委員： 「千曲川が氾濫した場合」であるが、新庁舎、新更埴体育館の建設場所は、堤防がやられたら一番先に水没するのではないかと思う。決壊し、新庁舎が水没したら近寄れなくなる。

企画政策部長：堤防が決壊してしまったら、あの地帯一帯は水浸しになってしまうので、その場合には、山の方など高台の方に避難していただく。雨量など上流からの状況が情報として逐次入ってくるので、事前避難などの情報を早急に出して、安全な所に避難していただくということになる。庁舎もしくは体育館は、地震などによる避難所としての想定である。

水没の100年想定では、庁舎1階部分が水没してしまう。その場合でも庁舎機能が維持できるように、機械類の配置を考えている。

委員：堤防の安全性チェックはしているのか。

企画政策部長：鬼怒川の堤防決壊以来、国交省でも堤防の点検を相当注意してやっていると思う。また、堤防も舗装していなかった部分についてもすべて舗装する、そうする事によって冠水しても堤防を痛めないで、そのまま水が上を乗り越えていく。国交省では、昨年、こうした工事を国の補正予算で早急に行なっているの、十分な対策を練っているものと思う。

委員：まちづくり懇談会が中学校区ごとに行なわれたが、それぞれ出席者を教えてほしい。

政策推進係長：八幡公民館26名、屋代公民館41名、戸倉創造館54名、教育総合センター21名で、合計142名である。

委員：142名ということだが、市としては、市民の意見を十分に聞ける人数が来たかと判断するか。

総合政策担当部長：あくまでも市民の皆さまからの意見をお聞きしたいという場であり、あらかじめ「何人が来れば意見を聞いた」というような想定、考えは持っていない。

委員：事前の数字は持っていないということはいいが、それぞれの中学校区でやって、例えば八幡で26人、埴生中学校区で21人ということで、十分に市民の意見を聞いたと言えるのかどうか。これだけの大きな地域で、少ないのではないかと思う。これは、市民の総合計画に対して関心がないのか、行政運営に対して興味がないのか、それともPRが足りなかったのか。今後このような機会はどんどん増えてくると思うので、その時にはもっとたくさんの方の意見などを吸い上げて、行政に活かしていくのが本筋だと思うが、いかがか。

総合政策担当部長：そのような考えを持っている。今後の反省として活かしていきたい。

また、この審議会やまちづくり懇談会のほか、パブリックコメントという形で自由に意見を出していただく機会も設けているので、総体的な中でより意見をいただけるよう心がけていきたいと思っている。

委員：そういう点では当然改善はされていくと思うが、こういった点が改善されないと、総合計画ができて、地域が一体になって進めていくということとは、ほど遠くなると思うので、しっかり反省した上で取り組んでほしいと思う。

会 長 : まちづくり懇談会でも新幹線新駅の誘致について意見として出ているが、この総合計画は、向こう 10 年、基本計画については 5 年の計画である。市長としては、新駅誘致の計画は 2、3 年で結論を出すと言っている。その辺のことや「万が一、頓挫した場合はどうするか」という趣旨の意見があるが、説明を願いたい。

企画政策部長 : ここで言っている交流拠点という将来像は、新幹線だけという訳ではない。千曲市の優位性を、新幹線を含めて交流拠点と言っている訳で、新幹線が仮になくても、交流拠点としての重要性は引き続きあるという説明である。

会 長 : 意見ではないのだが、説明だけお願いしたい。「基本計画(素案)」の 1 ページ目の部分の「第 1 章」に個別計画の一つとして「立地適正化計画」がある。この千曲市版が年末に公表されているが、その中に、誘導区域を含めた土地利用の具体的な内容が書かれている。この部分が個別の計画に相当するので、これと総合計画の中の第 1 章部分の土地利用が、しっかり整合しているかどうかというのは、確認いただいた方が良いかと思うが、いかがか。

総合政策担当部長 : 直接は建設部の関係になり、現在パブリックコメントに出している段階で、最終案までは承知をしていないが、私どもの捉え方としては、「千曲市版のコンパクトシティ」は、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」ということで、中心的な拠点とその他の拠点をネットワークで結ぶ構想だと理解している。したがって、その考えに基づいた計画内容であると捉えている。

会 長 : 他によろしいか。

それでは、「(1)」のパブリックコメントおよび懇談会に関する内容についてはこれで終了とさせていただきます。

(2)「千曲市の将来の姿(案)」について、前回からの続きになるが、事務局より説明願いたい。

## (2) 千曲市の将来の姿(案)について

政策推進係長 : 「第 2 章 千曲市の将来の姿(案)」は、11 月 18 日に初めてお示しさせていただいたものである。

修正前の「千曲市の将来の姿」については、パブリックコメントなどでの意見はなかったが、前回の審議会で委員の皆さんからこの部分について意見をいただいたので、庁内策定委員会で協議のうえ、修正案としてまとめたものが、右の修正後のものである。

前回の将来像をお示しする中で、審議委員の皆さんからいただいた意見は大きく 3 点であると思う。

1 つ目は、「科野 さらしな」というリードの部分だが、「はにしな」も加えて

地域的に配慮した方が良いのではないかという意見。

2つ目は、「史都」が、わかりづらいというご意見。

3つ目は、解説部分が、歴史文化に非常に偏っているのではないかというご意見。

以上の3つである。これらの意見を踏まえて修正案を作成したので、説明させていただきたい。

まず、「科野の国 さらしな はにしな」の部分。リードであるが、この地域の歴史文化や地理的な条件を活かした表現として「さらしな はにしな」とし、「史都」の理解がより深められる効果を持たせるため、歴史遺産の都をイメージさせるよう「科野の国 さらしな はにしな」とした。また、「史都」がわかりづらいとの意見から、解説全体を改め、それぞれのキーワードごとに区切った解説とした。

会 長：ただ今の説明に関しまして、いかがか。

委 員：信州の交流拠点という標題があるが、その解説に100万人を超える長野県民が住む「長野、上田、松本」の3地域への移動時間がほぼ等しい地に位置していると。したがって、これらの所との交流が市内の持つ資源をさらに磨き上げて、各地との連携、交流が高まるまちにしたい、というような希望だが、移動時間がほぼ等しい所にあったからといって、現状を鑑みた場合にいかなものか。

ことばの上では非常に納得がいくと思うが、現実を考えた場合、果たしてこのような形になり得るか、または相当な努力が必要ではないか。

企画政策部長：総合戦略を作った時に千曲市の位置づけを、「人・物・情報が行き交う賑わいの広域交流拠点都市の創造」というキャッチフレーズを出した。次世代支援部で移住定住のキャンペーンを東京でやった時に、「千曲市」と言っても、「どこ？」と言われてしまう。人によっては「せんまがり市？」とか言われてしまう。「長野市の中心に行くのに30分ちょっと、1時間かからないんですよ」「上田にはもっと近いんですよ」「高速道路を使うと松本も近いんですよ」「軽井沢も高速を使わなくても1時間かからないんですよ」って話をすると、「そんな良い場所あるのんですね」と言われる。あらためて「千曲市は立地的に良い場所にある」ということをまず市民の皆さんにも理解していただきたい。それから、来ていただけるお客さん、移住される方々にも、こんな良い場所があるんだということをPRしていきたい。そしてその先には、先ほどの文章の中にもあるように、中京圏、都市圏、北陸圏、今度は新幹線で大阪まで行けば、関西圏、そういったものがさらにその向こう側にあるんだというようなことを含めた「交流拠点都市」というフレーズである。おっしゃるように、これを実際、数字にして人を集めていくとなると大変な

作業になるかと思うが、目標を高く掲げて、千曲市の位置づけをキャッチフレーズのようにしていきたいという思いである。

委員：対外的にはそういうものを積極的に打ち出していくのも結構だ。ただ、地元の人たちがその辺を認識をしていないということが一番の課題であり、こういうものを配布することによって、納得する人もいるでしょうし、しない人もいるので、その辺のところは難しい部分ではないかと、率直に思うところだ。

委員：この将来像というのは非常に大事な捉え方、認識のスタートだと思っている。まちづくり懇談会、パブリックコメント、10年前と変わっている時代、認識、背景、そういうものを踏まえて将来像の姿を設定したとき、文言に違和感がある。賑わうとかは良いが、やはり今一番大事な認識は、少子高齢化であり、核家族の進行いわゆる家族共同体的なものの希薄化、大都市圏一極集中、生活格差の拡大だと思うので、私はやはりちょっと偏っていると感じる。これからの時代的な背景を捉えれば、市民が創造して、市民が全員で新しいまち、合併して10何年か経っているこの千曲市、もっと住みたいまちにどうしたらできるか皆で創造していく中で、ちょっと思い入れが強すぎる。

企画政策部長：日本全国すべての自治体に課せられているのは住民の福祉、生命・財産を守ることであり、そこはもう共通である。他市の将来像を「千曲」と置き換えてもまったく通用する。今回、非常にある種メッセージ性の強いものを出した背景としては、10年前に策定した総合計画の将来像「千曲の魅力と多彩な力が未来を拓く躍動の都市」は、私どもとすれば、合併して「胸を張って市民の皆さんと力を合わせてまちをつくっていくんだ」という思いでつくった。そして、それなりに市民の皆さまからも評価をいただいているが、今回の第二次にあたっては、議会から「現在の将来像は、10年前の合併時のキャッチフレーズとして良いものだが、第二次の時は、千曲市だとわかるようなものにしてほしい」と要望があった。「交流拠点都市」という将来像は、どこでも使えるというものではなく、「千曲市だから胸を張れる」と我々は思っている。原案にはそういう背景があるということでご理解願いたい。

委員：1章だけの「千曲の魅力で創生する賑わいと活力のある都市」ということをアピールするために将来像ができているような感じにもなってしまうので、その辺は承知しておいてほしい。私は「共生」「協働」というようなことをもっと少しどこかに入れてもらいたいと思っている。

委員：「史都」を使いたがるというところに、非常に違和感があるが、広辞苑とか引くと、「歴史上の古跡の多い都市」と書いてある。千曲市も「都市」って認識している人と、いない人がいると思うが、私は「都市」だとは思っていない。それと、古いものということだが、「森将軍塚」「棚田」は良いとして、「重伝

建の稲荷山」は明治以降であるし、上山田温泉も明治以降のものだ。そこを古いと見るか、古くないと見るかは人それぞれだと思うが、普通の認識でいうと、「史都 鎌倉」とか、「松本」とか、そういう所に私は合うと思う。一般の人がまず「史都 千曲市」という認識をするかという点で、史都の意味合いと、一般の人が見たときに「千曲市。ああ、史都だね」と思えるかどうかという点で、あえて「史都」を使わなくてはいけないか、というところに非常に疑問を持ってしまう。ちょっと千曲市には、そぐわないのではないかと思う。その辺の議論も含めてどういう意味でこの「史都」を使うのに固執しているのか、教えてほしい。

企画政策部長：以前、議会で「史都宣言をしたい。しようじゃないか。」というのが出た時があった。千曲市の都市宣言のひとつとして、「史都 千曲市」というのを宣言しようと。東日本最大の古墳もあるし、稲荷山もあると。千曲市の市民がなかなか知らないような歴史、実はここは信濃（科野）の中心だったという歴史があるんだと。その事をもっと市民も知らなければいけないし、外にも発信しないといけない。ということで、一時期、議会で話題になったが、結局そこには至らなかった。

これからの都市間競争の中では、自分たちで「うちはすごいんだよ」という部分をPRしていく。そのためには「すごいんだよ」と外に言うだけのものをしっかりと整備していくんだということで、「稲荷山の重伝建」もこれからしっかりやっていく、棚田もしっかり整備していく、そして、外に対して、「うちは史都なんだよ」と胸を張れるような市にしていきたい、という想いをここに込めている。

委員：これは一般のところにも出ていくので、その時にそういう一般の人の常識から外れているようなことをやることによって逆にマイナスになるということもあると思う。「史都」をわざわざ使わなくても、それに見合うことばがもっとたくさんあると思う。これからこの5年間のうちに整備して行って、周りの人たちの認識、市民の認識が盛り上がってきた時には、「史都」ということばを使っても良いと思うが、現状でそういう都市になりたいから「史都」だというのはちょっと乱暴なような気がする。

委員：私は大分の生まれで結婚してこちらに来たので、これで今、丸4年千曲市に住んでいる。私は、この「史都」というのは賛成だ。市民の方も行政の方も、もっと千曲市にある史跡や歴史、財産の認識を深めるような取り組みをしないといけない、と率直に思う。

私は、更級に住んでいるが、稲荷山も含めて、姨捨の棚田、冠着山、縄文遺跡など掘れば掘るほど山のように出てくるので、私からしてみると宝の山で、本当に歴史、文化、観光につなげることもできるし、もっと盛り上げて、も

っと目立つようにして良いと思う。例えば、善光寺の建築物に比べると、稲荷山の建築物というのは格段に稲荷山の方がすばらしい。建築家の方にも良く見てもらうのだが、善光寺自体はすごい。善光寺はすごいのだが、その周りにある建物というのは全然比べものにならなくて、稲荷山の方が歴史文化、あと、お金のかけ方が違う。こういった面でも可能性というのはあるので、私としては、そういったものをもっと進めていき、「史都」ということばがそれにつながるのであれば、使っても良いのかと思う。

会 長 : 他にもご意見のある方もいると思うが、この修正案の「将来の姿」は、千曲市の10年先の姿をイメージいただければという部分だと思う。

私も中間答申の時に市長とお話しをさせていただいたが、事務局からの説明のとおり、「交流拠点」あるいは「拠点の整備」に対する思いをすごく持っていると感じた。これから千曲市に残したい部分も、あるいは進めたい部分も大事だと実感している。市長の想いを受け入れていただき、市民の皆さまが一体的にこの計画に向かっていくということになると思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは「(3)」の、これは「基本計画」の中の「指標等の達成すべき見通し」というのが、a、b、cの「c」の中に入る部分であるが、この目標について、「まちづくりの達成状況を図る目安」ということで、「成果指標」の部分の説明を願ひたい。

### (3) まちづくりの達成状況を図る目安 (成果指標)

<事務局より説明>

会 長 : 説明のあった「成果指標」についていかがか。

委 員 : 2ページ目の「千曲川ワインバレー」で、今、2.6から4ヘクタール、約2倍にするような感じだが、先日、「千曲市の海拔はそもそもワイン用のぶどうには足りない」というようなことを聞いた。約2倍に設定する栽培面積地はどの辺のところを考えているのか。

企画政策部長 : 担当ではないので今ここでお答えはできないが、審議委員さんの中に専門の方がいるので、ご説明よろしいか。

委 員 : 千曲市は、標高的に一番低いところで370メートルぐらい、上の方へいったら500メートルとか超えていると思う。長野全体でどういう品種がどういうところに適しているというのがまだはっきり定まっていない状況の中である。日本全国見渡しても、南は九州から北海道まで色々なぶどうの取り組みをされている。千曲市にはまだ本当に色々な可能性として、他にない良い所があると思うので、逆に長野県の中では低いことから、違うぶどうができていくと私は思っているので、4ヘクタールと言わずに私はもっと増やしてほしい

と思っている。

委員：市内事業所数、製造事業所数、卸・小売事業所数はすべて維持ということになっているが、従業員というのは、やはり横ばいと見ているのか、事業所数は同じでも増えるか見ているのか、また、企業誘致と言っている割には事業所数が同じというのは、どういう意味なのか。

総合政策課長：まず従業者数については、「安定した雇用」の部分で、指標を設けている。市内事業所の雇用数は総合戦略の指標になるが、製造業の従業者数、卸・小売の従業者数を見込んでいる。事業所数の部分であるが、市では企業誘致を進めている。現状のままだと、統計的に企業数は減少傾向というのが実情である。これから、企業誘致、創業支援を進めていく中で、数値を設定している。

会長：この「c」の「達成すべき見通し」の部分には、今説明いただいている資料の具体的にはどの辺の部分が入るのか。

政策推進係長：指標名からすべて入る。詳しくは「後期基本計画」にもそれぞれこのような形で記載されているので、確認願いたい。

会長：その一部はすでに「総合戦略」の方で示されていると。具体的な内容が多いので、後で見返していただき、次回、お願いしたい。それでは、次「(4) その他」についていかがか。

#### (4) その他

会長：今回で9回目になるが、全体を通していかがか。

<委員から意見・質問なし>

政策推進係長：それでは、次回2月7日の10回目のこととお話しさせていただく。次回は、財政計画の考え方の説明と今日示した成果指標について、意見などをいただきたいと考えている。また、「まちづくり懇談会」「パブリックコメント」での意見、議会からの要望等があるので、それを踏まえた「修正案」を示し、審議いただきたい。

会長：次回は、最終答申案を全体としてやるということによろしいか。

総合政策担当部長：前回の中間答申では、「基本構想(案)」「基本計画(案)」それぞれ、概ね妥当とご判断をいただいた。その後、今回の修正部分、あるいは議会の要請に対する修正箇所があったので、それを含めたものを検討いただき、それを反映した形にさせていただきたいと思っている。それをもって、最終答申の際は「別紙のとおり答申する」という形で、いただければと思っている。

会長：今日予定しておりました議題というのは以上である。



#### 4. その他

事務局：その他、何かあるか？

委員： 「パブリックコメント」は、ホームページに掲載されるか。

事務局： 市ホームページに掲載する。

#### 5. 閉 会

<企画政策部長より閉会のあいさつ>